

## 幸手市地域福祉計画推進委員会会議録（要旨）

会議名称	幸手市地域福祉計画推進委員会会議
開催日時	平成30年3月26日（月）午前10時30分～午後0時30分
開催場所	幸手市保健福祉総合センター（ウェルス幸手） 第2会議室
出席者 ※委員長◎ 副委員長○	◎瀬川裕史、○池田智子、吉川一男、秋谷清、上村京子、染谷正夫 木村 信隆、森久子 [欠席委員] 新井英子、小川哲也
議 事	・幸手市地域福祉計画の進行管理について 他

### 【委員からのご意見】

- 1 「広く周知が図れた」という表現がされているが、数値的目標を作ってもらった方が評価しやすい。
- 2 基本目標1の施策1「福祉に関する教育・啓発の推進」は特に重要なところだと思う。今後は市民が主体で福祉のまちづくりを進め、行政がサポートする共生社会が全国的に進んでいる中、幸手市は全国から特に進んでいるという認識を持っている。  
また、(2)「福祉に関する学習機会の充実」の中で認知症サポーター養成だけが掲載されているが、健康増進課のスーパー健康長寿サポーター養成事業が漏れているので書き足していただきたい。
- 3 今回は評価を行うのは初めてということもあるが、今後はPDCAサイクルを進める中で、評価基準となる数値目標を内容を良くわかっている行政の方で作ってもらえば良いと思う。例えば、参加人数を何パーセント増加させるかといった目標にした方が現場も動きやすいと思う。
- 4 基本目標2の施策1「地域で支え合うコミュニティの創出」の中で、市民のコミュニティ意識の醸成は難しいと思う。市民が積極的に参加しようという意識の醸成が、計画では各種証明者の発行や届出となっているが、これで醸成出来るのかということから計画自体が足りていないように感じる。
- 5 基本目標2の施策1(5)「住民の支え合い活動の促進」は特に重要な施策と思われるが、事業が展開されていないことは残念である。支え合いは、住民が参加し

なければ始まらないことであり、是非、事業を展開してもらいたい。

- 6 空き店舗対策として、失敗してもいいので、いくつか商工会の方と取り組んでいければいいのではないかと思う。
- 7 基本目標2の施策3(7)の中の「子どもの学習支援事業」について、去年は4月から7月まで募集が出来なかったとなっているが、平成30年度はどのように変えようとしているのか。以前、いじめ問題の委員会に参加した際に、募集方法が難しいと校長先生から聞いているが、どのように募集するのか。
- 8 基本目標2の施策3(1)「見守り・声かけ活動の促進」について、独居老人に対し、民生委員が訪問しても受け付けないケースが多く、「一人でやっていけるから放っておいてほしい」と言っていたが、そうしたら倒れてしまったというケースがよくある。要注意として、外から見守っていくしかない。
- 9 基本目標2の施策3(2)「虐待などの早期発見と支援」について、いじめや虐待は越谷児童相談所には幸手の相談が年間99件あり、以前より増えている傾向にある。埼玉県では1万件を超えており、周知が図られ見つけやすくなっているが、確実に増えてきている。この件の施策はとても大事であると思っている。また、最近では、心理的な虐待が増えているが、潜在化してしまい見つけにくくなっており、このような対策にも取り組んでいただきたい。
- 10 基本目標4の施策2(1)の中の「施設・居住系サービスの整備」について、これからは、団地の空き店舗や集会所にサロン、デイサービス、訪問看護ステーションをやりたいという企業もあり、全国的に整備が進められている。施設というと特別養護老人ホームみたいになっているが、このような取組も目指してもらいたい。こうした団地を有効活用していくことは大事だと考えている。包括支援と言っているが、高齢者のことばかりで、地域を包括するという考え方から言えば、赤ちゃんからお年寄までがいるアイデアを施策として取り組んでいただきたい。このことが人口減少の対策にもなると思う。
- 11 基本目標4の施策2(2)の中の「デマンド交通運行事業」について、予約が取りにくいという意見を聞くが、病院の帰りのように時間がわからない場合は予約が取れないということである。以前の循環バスの方が良かったという意見もあり、再検討をした方がいいのではないか。